

和歌山県

2019 年（令和元年）

和歌山県チャレンジド工賃水準倍増事業

事業実施内容報告



2020 年（令和 2 年）3 月

一般社団法人 和歌山県セルフセンター

事業実施内容報告

1. 障害者就労施設職員の人材育成のための研修等にかかる事業

委託契約仕様書4-(2)に基づき、以下の研修事業所実施した。

実施年月日	研修名及び開催場所	参加人数	研修内容	備考
2019/5/31 (金)	研修 1「地域でがんばる 障害者と経営改革」 みなべ町 国民宿舎紀州 路みなべ	20 名	早月農園が農業を通じて地域との交流 を深めている報告。第2なぎの木園が 事業所一丸となって新規授産事業を起 こした報告 講師 早月農園 大辻 幸氏 なぎの木園 中峯邦介氏 全国の障害者を取材し季刊誌「コトノ ネ」誌上で情報発信されている里見喜 久雄氏による講演。	
2019/6/24 (月)	研修2 HACCP 導入に むけた基礎学習 田辺市 田辺スポーツパ ーク	24 名	HACCP に沿った衛生管理の実施が制 度化され、食品関係事業者を対象に、 HACCP の概観と基礎学習、HACCP 計画の作成の演習を行った。 講師 株式会社松野商会 松野充浩氏	
2019/7/31 (水)	研修3 農福連携の売れ る加工食品とは 学習と 品評会 みなべ町 国民宿舎紀路 みなべ	20 名	農産物の加工食品に特化した品評会と 学習会を開催。6次化商品の開発のヒ ントと出口(市場)を考えた商品づく りを研修、また、各事業所から、農産 加工品の品評会を開催し、情報交換の 貴重な場となった。講師 株式会社コ ープニュース代表 田中陽子氏 (農水省6次産業化プランナー) 西 日本産直協議会顧問 栖村藤夫氏	
2019/9/27 (金)	研修4 農福連携 モデ ル事例 三重県視察研修 三重県	15 名	NPO法人えんの伊賀農場と社会福祉 法人まつさか福祉会八重田ファームを 視察研修。前者は、水耕栽培で小松菜 やネギを栽培、後者は、いちごのハウ ス栽培をメインにおこなっている。	
2019/10/9 (水) 2019/10/23 (水) 2019/11/6 (水) 2019/12/4 (水)	研修5 6次産業化食品 の安全の確保 HACCP 制 度対応のための連続講座 新宮市保健センター・新 宮市役所別館大会議室	11 名	食品の安全性を確保するため HACCP 制度が2020年6月までには導入され る対策として、連続講座をもって、 HACCP 制度に対応できる知識と具体 的な書式の書き方等の学習。 講師 株式会社松野商会 松野充浩氏	
実施年月日	研修名及び開催場所	参加人数	研修内容	備考

2019/11/1 (金)	研修6 6次産業化食品の安全の確保 一衛生管理と HACCP 食品表示 和歌山県ビッグU	18名	農産物の6次産業化に取り組む事業所における食品の安全を確保するためにHACCP制度への対応と食品表示について学習する。 講師 マックス株式会社 森本 将之氏 ホシザキ京阪株式会社 講師 坂井 隆明 氏
2019/11/16 (土) 2019/11/30 (土)	研修7 清掃業務パワーアップ研修	11名	清掃業務の知識、技術の向上を目的に、床、窓、照明、空調設備等の清掃技術を実地研修で習得する。 講師 中村和弘氏 ビルクリーニング技能士
2020/1/22	研修8 仕事づくりを考える 高工賃をめざす連携の取組を 和歌山市 和歌山県北コミュニティセンター	55名	①県における共同受注窓口との契約について 講師 障害福祉課 熊野佳恵 ②兵庫セルフセンターからの報告 講師 事務局長兼事業企画部長 脇原 隆司 氏 ③「B型部会の論議と清掃業務パワーアップ研修」の取組 講師 事務局長兼事業企画部長 脇原 隆司 氏
2020/2/12	SNSでもっとPR(和歌山市開催)	10名	Instagram、YouTube、Googleを活用し、事業所の日常や、事業内容を発信する。講師 橋本智弘氏 にでがわし ようこ氏 百名朝茂氏
2020/2/19	SNSでもっとPR(田辺市開催)	6名	
2020/3	研修9 実績報告会	新型コロナウイルス感染予防のため 開催見合わせ	●実績報告 ●工賃向上のための取組のアンケート 集計結果 メールで送信 (2020/03/30) ●農福連携アンケート計結果 メール で送信(2020/03/31)

2. 工賃・賃金向上アドバイザー派遣事業

委託契約仕様4 - (3)に基づき、以下のアドバイザー派遣事業を実施した。

事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
<p>社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて 就労継続支援事業 A 型事業所</p>	<p>米粉パフ菓子の商品企画、製造、流通、販売の一連の流れから、販売から逆算した商品開発を進めたい。</p>	<p>山添利也 コンサルタント 藤戸 佐千世 ビジネスデザイナー</p>
<p>【支援内容】米粉パフ菓子の商品設計を検討する。包材デザインを担当する藤戸氏にも商品設計にかかわってもらい、現在流通している他のパフ菓子等の商品を分析し、お土産仕様に決定する。</p>		
<p>【成果】梅フレーバーが完成。販売開始する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
<p>特定非営利活動法人はまゆう作業所 だるま 就労継続支援事業 B 型事業所</p>	<p>切干大根のリニューアル販売。</p>	<p>田中陽子 コープニュース代表</p>
<p>【支援内容】品質の良い「切干大根」をさらに差別化し、高付加価値での販売と包材リニューアルで新規販路開拓を検討する。</p>		
<p>【成果】パッケージのラベルデザインは、新調するも差別化内容が、食品表示の規制で十分に表示できずにおわる。また、無農薬原料での製造工程を確立できず、新ラベルでの販売は、見送っている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
株式会社ワークメイト ワークメイト印南 就労継続支援 A 型事業所	今後、真妻のワサビを使って事業化したい。静岡のワサビの発祥の地は、日高地方であり御坊高専の土井教授?の支援も受けている。今後製造、商品化、販路に至るまでの支援をお願いしたい。	和高専 土井正光教授 コープニュース 代表 田中陽子氏

【支援内容】高機能炭を使った水耕栽培については、和高専の土井正光教授に温度管理や防虫指導を受ける。わさび生育には2年をようするため、わさびの葉の加工品開発も行うようアドバイスがある。田中陽子氏からは、わさび自体の消費は普通の家庭ではなく、すし屋、ホテルのレストラン等に需要が見込める。真妻ワサビのブランドであれば買い手がつく。地元から営業し、商品力を試すようアドバイスをうける。

【成果】栽培は、順調のようだが、事業化に向けての生産拡大については、事業所内での課題となっている。



事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
社会福祉法人和福祉会 和作業所 就労継続支援 B 型事業所	ラスクの商品開発	平野貴代 製パン店経営者

【支援内容】既に小麦パンのラスクは製造販売していたが、さらに商品特徴をもたすために平野氏の指導を受け、商品開発を企画。米粉のラスクの提案がある。平野氏の指導の下、ラスク試作をし、米粉ラスクが完成する。プレーンに加え、フレーバーを和歌山県産にこだわり、紅映オレンジ、生姜、ほうじ茶に決定する。

【成果】プレーン、紅映えオレンジ、生姜が完成する。今後、和歌山県セルフセンターでもラスクの商品化を行い、県内事業所への製造委託を検討していく。



事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
------	--------	--------

社会福祉法人なかよし福祉会 なかよし作業所 就労継続支援 B 型事業所	ミニトマトジュースの販路拡大	藤原桃代氏 デザイナー
-------------------------------------------	----------------	----------------

【支援内容】ミニトマトのジュースの包材、ラベルデザインのリニューアルで販路拡大を企画する。日照時間が長い日高地方。特産のミニトマトのみを使用したジュースは、地域、原材料という二つの強みにある商品であり、ミニトマトのみのジュースは、他にはない。この商品力を事業所が確信することで、原料仕入れの品質を向上させるため、仕入れ価格を上げること、原料確保のために生産者を確保する等事業所が積極的な行動にでる。事業所、アドバイザー、セルフ担当で生産者を訪問し、ミニトマト栽培のハウスを見学する。ミニトマトジュースの試飲調査では、トマトジュースが苦手という人にも好評である。ラベルデザイン案を6種あげてもらい、検討する。

【成果】ラベルデザインが決定し、4月13日に販売開始予定。原料確保の準備体制。



事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
社会福祉法人一麦会 はぐるま共同作業所 和の杜 就労継続支援 B 型事業所	せんべいの販路拡大とジビエメンチカツの商品開発。	中井謙次朗 マーケットコーディネーター

【支援内容】「健康せんべい」のブランドで販売していた商品が無添加で品質が良いことから、リニューアルし販路拡大を企画する。土産仕様に特化し、ネーミング、フレーバーと種類、パッケージ仕様を土産物店での陳列しやすさ、購入者への行動パターンを分析、パッケージ仕様、パッケージデザイン、訴求点を検討する。訴求点は、無添加、フレーバー原料の県産品にする。塩は、太陽福祉会の塩を使用する。「ジビエメンチカツ」は、新商品として企画する。コロッケ、メンチカツの製造実績があり、特徴のある商品として、ジビエメンチカツを企画する。企画途中では、サンプル提供先からの要望で、無添加版として古代小麦のパン粉仕様や、ホテル仕様として薄味版等のアイテムを商品化する。

【成果】「和さぶれい」としてパッケージデザイン、ラベルデザインを変更し、主にホテル、旅館等での採用が決まる。商談の反応は良い。現在、ホテルの部屋菓子仕様の要望があり、企画中である。ジビエメンチカツは、飲食店での採用が決定する。また、ホテルの朝食ビュッフェ用のミニサイズの要望があり、企画中である。



事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
------	--------	--------

社会福祉法人会きのかわ福祉会 ふるさとファーム 就労継続支援 B 型事業所	ポップコーン、ポン菓子のフレーバー定着と商品化。自分たちで、いろいろとポン菓子フレーバーや形状を検討するか商品化できていない。	杉本佳奈 管理栄養士、JR 野菜ソムリエ
---------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-------------------------

【支援内容】ポン菓子を製造し、卸業者に販売を依頼中である。新規オリジナルなフレーバーを開発し、商品化したいが、フレーバーの定着が難しい。杉本氏は、フレーバーの定着も試作しながらポン菓子もいろいろとグラノーラの商品化を提案される。杉本氏がふるさとファームの製造するドライフルーツを利用し、サンプル制作を行う。ポン菓子に比べ、見た目もおしゃれなグラノーラである。続いて、ポン菓子のフレーバーは、既存の商品は、甘いものが多いため、辛口仕様で新たな顧客開拓を企画する。

【成果】ポン菓子の辛味フレーバー、そのフレーバーでのぽんせんべい、ポン菓子のグラノーラと商品化案が決定する。今後、商品化にむけ、商品化への製造工程の構築、商品名、包材、ラベルデザインの課題を残す。



事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
社会福祉法人石会 ひかり作業所 就労継続支援 B 型事業所	お弁当事業をしているが、メニューを考案にこまっている。メニューを考えてほしい。	杉本佳奈 管理栄養士、JR 野菜ソムリエ

【支援内容】アドバイザーがお弁当のメニューを提案、料理の種類、味のバリエーション、調理器具（スチームコンベクションオーブン）の使用方法、原価計算等の指導を受ける。

【成果】指導されて内容で、お弁当の改善を実施中。

事業所名	派遣希望理由	アドバイザー
------	--------	--------

NPO 法人りとの フラット 就労継続支援 B 型事業所	従来から事業所前で開催している農産物の朝市を定期開催し、工賃向上につなげたい。	
<p>【支援内容】協力団体を広げ、野菜販売を「フラット市」として固定的なものにする。宣伝方法のノウハウの指導、新商品の企画提案、機関紙発行の指導。</p>		
<p>【成果】12月、1月末の2回の市を開催する。1月末には、開始前から地域住民が集まり次盛況で81,000円の売上があった。次回4月を予定しているが新型コロナウイルスの影響で日程未定。</p>		

3. インターネットを活用した県が実施する工賃・賃こう金向上のための取組等の情報提供委託仕様書4-(4)に基づき、以下の事業を実施した。

実施日	情報内容	提供方法
2019/5	チャレンジド工賃水準倍増事業のパンフレット	ホームページ
随時	研修会 開催案内	ホームページ
2020/5/31	アドバイザー派遣事業 事業案内	ホームページ
2020/3/30	工賃向上のためのアンケート 集計結果【暫定版】	ホームページ
2020/3/31	農福連携アンケート 集計結果【暫定版】	ホームページ
2019/9/27	Instagram 投稿開始	ホームページ・Instagram

4. 展示・即売会及び商談会の開催

実施日	開催内容	行事名	開催場所
2019/5/15 (土)	即売会	アビリンピック	ポリテクセンター
2019/7/31 (水)	ミニ展示会	研修3 農福連携の売れる加工食品とは 学習と品評会	国民宿舎紀州路みなべ
2019/8/6 (金)	商談会	わかやま産品商談会	和歌山ビッグ愛
2019/11/9~11日	即売会	ねりんピック	和歌山ビッグホエール
2019/11/28 (火)	商談会	わかやま産品商談会	大阪
2020/1/12	即売会	ポポロハスマーケット	ブラクリ丁商店街
2020/1/29 (水)	即売会	フラットマルシェ	ワークショップフラット

2020/1/29 (金)	ミニ展示会	東牟婁農福連携セミナー	那智勝浦文化体育会館
2020/2/19(水)~23(日)	即売会	全国ナイスハートバザール	イオンモール津南 (三重県)

5. 農福連携による障害者の就農促進プロジェクト

a 専門家の派遣等 (農業技術支援及び6次産業化支援)

実施日	実施内容	対象事業所	開催場所
2019/10/18 (金)	6次産業化支援 金山寺味噌の県産原材料のアドバイス	ふれあい作業所	ふれあい作業所
2020/3/6 (水)	農業技術支援 安田農園 安田裕志氏 生姜の栽培	エコ工房四季	安田農園 (那智勝浦町)
2020/2/4 (水)	6次産業化支援 生姜 パウダー	わかば園作業所	安田農園 (那智勝浦町)

b 農福マルシェ

実施日	実施内容	対象事業所	実施場所
2019/11/23 (土)	農福マルシェ	早月農園・太陽川辺作業所・わかば園作業所・あいランド・ワークメイト 印南・ひまわり作業所	和歌山ビッグホエール

c 農業に取り組んでいる障害者就労施設の好事例の収集及び他の障害者就労施設で共有する等の意識啓発

実施日	実施内容	対象事業所	実施場所
2019/5/29 (水)	見学	だるま	上富田町
2019/9月/27 (金) ~9/28 (土)	見学	まつさか福社会 NPO 法人えん	三重県
2020/3/18 (水)	見学	太陽川辺作業所	日高町

d 農業生産者と障害者就労施設による施設外就労とのマッチング支援

実施日	実施内容	対象事業所	実施場所
2020/2/18 (火)	J Aかわかみ様と柿の 摘蓄事業の打ち合わせ	参加予定 橋本、伊都、 那賀圏域の事業所	J Aかわかみ、圃場
2020/3/7 (土)	山椒収穫の下見	ふれあい作業所	有田川町

6. その他の事業

- ・工賃向上のための取組に関するアンケート (別添1-1)

- ・農福連携アンケート(別添1-2)
- ・共同受注窓口に係る取組

実施日	実施内容	結果
2020/2/20 (水)	火災予防運動啓発物品	720 個×納品
2020/3/9 (月)	伊都圏域 振興局、橋本保健所の清掃業務の入札	落札
2020/3/26 (木)	有田圏域 振興局、保健所の清掃業務コンソーシアムの調整	落札
2020/3/5 (木)	東牟婁圏域 なぎ看護学院の清掃業務コンソーシアムの調整	不調



2019年度和歌山県チャレンジド工賃水準倍増事業 研修1 「地域でがんばる障害者と経営改革」 実施要綱

1. 趣旨

事業所で働く障害者の工賃向上をめざすとき、現場職員のやる気とともに管理者や経営者の理解を得ることが大切です。現場職員・管理者（経営者）のどちらか一方だけでは、物事は進みません。この研修では、現場職員と管理者が力を合わせることによって事業が進んでいる事例報告を聞きながら高工賃実現のためにできることを考えていきます。

第1部では事業所報告です。報告1では、第二なぎの木園が進めている焼き菓子製造の取り組みの報告を聞きます。報告2では、有田川町の山間部にある早月農園の高齢化と農業後継者不足を抱える地域の悩みを取り込みながら高工賃を実現している事業所からの報告です。

第2部では季刊「コトノネ」編集長の里見喜久夫氏を迎え、「障害者福祉で地域は生まれ変わる」をテーマにしたご講演です。障害者福祉が地域の支援を求めるのではなく、地域こそ障害者福祉の活躍を求めている。これからの時代の障害者福祉を語っていただきます。

2. 実施日 2019年5月31日（金）

3. 実施場所 国民宿舎紀州路みなべ（〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町畦田1540 ☎0739-72-3939）

4. 講師・報告者

第1部 事業所報告	第二なぎの木園・早月農園
第2部 講演	「障害者福祉で地域は生まれ変わる」 季刊「コトノネ」編集長 里見喜久夫氏

5. 募集定員 40名

6. 日 程	13:00	受付開始
	13:30	開 会 和歌山県セルフセンター 代表理事 水木佳直氏 挨拶 和歌山県障害福祉課 施設福祉班 班長 戎脇伸晃氏 挨拶
	13:45	和歌山県チャレンジド工賃水準倍増事業実績報告と計画 山添高道氏
	14:00	事業所報告1 第二なぎの木園
	14:20	事業所報告2 早月農園
	14:40	休 憩
	15:00	講 演 講師：季刊「コトノネ」編集長 里見喜久夫氏
	16:30	終了

7. 参加費 無料 5月24日までに申込みをお願いします。

*研修会終了後、里見氏を囲んで懇親会を開催予定しています。
会費は3500円になります。こちらのご参加もお待ちしております。



講師紹介 里見喜久夫氏

全国の障害者施設、就労支援施設の経営改革に関する様々な提案を行うことを目的に、季刊雑誌「コトノネ」を2012年1月に創刊。東日本大震災を契機に、被災地の障害者支援施設の復興支援をしたいという思いから創刊を決意。8年目を迎える中、全国の障害者支援施設の様々な働く場を紹介、福祉にまつわる国内外の話題も提供。本業は、デザイン会社経営。有名ウイスキーのボトルのラベルや、オリンピックで採用されたバトミントンラケットのデザインを手がける。関西出身。

季刊雑誌『コトノネ』発行人／編集長、自然栽培パーティ（一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会）副理事長、夕張学会代表、全Aネット（NPO法人就労継続支援A型事業所全国協議会）監事、株式会社ランドマーク代表、株式会社コトノネ生活代表



研修会2

HACCP (ハサップ) 導入にむけた基礎学習

講師

株式会社松野商会 代表取締役 松野充浩氏 (HACCP推進センターアドバイザー、リードインストラクター 歴)

と き 2019年6月24日 (月) 10:00~16:00

と ころ 田辺スポーツパーク 多目的ホール 田辺市上の山一丁目3番1-1号 TEL 0739-25-2531

定員 40名 参加費 無料

HACCPの制度化スケジュール

あと1年

2020年6月まで 「改正食品衛生法 施行」

経過措置期間 1年

2021年6月まで 「改正食品衛生法 移行」

平成30年6月13日に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律では、原則としてすべての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理の実施が制度化されました。

HACCP (ハサップ) とは「Hazard (危害)」「Analysis (分析)」「Critical (重要)」「Control (管理)」「Point (点)」という言葉の略語で、食品を製造する際に安全を確保するための管理手法のことを言います。日本語ではそのまま「危害分析重要管理点」と訳されます。HACCPによる衛生管理は、各原料の受入から製造、製品の出荷までのすべての工程において、食中毒などの健康被害を引き起こす可能性のある危害要因 (ハザード) を科学的根拠に基づき管理する方法です。

どうしたらいいの～

まだ間に合います



研修内容

■ HACCPの概観

■ 基礎学習

■ HACCP計画の作成

演習を通してわかりやすく学習します。

持ってくるもの

- ①筆記用具
- ②自社商品の一括表示ラベル (一品目)
- ③その商品の材料がわかるもの (製品規格書)
- ④製造場所の見取り図 (保健所提出分でも可)
- ⑤厚生労働省HPに掲載されている「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書」を印刷してご持参ください。



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179028_00003.html

厚生労働省HP→政策について (各分野別の政策一覧) →健康・医療 (食品) →政策情報→各政策情報 (HACCP) →食品等事業者団体が作成した業種別手引書→HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書 (各業種ごとに掲載)

ご不明な点は、ご遠慮なくお問い合わせください。(担当 小畑)





研修会3
農福連携の売れる加工食品とは 学習と品評会

講師

株式会社コープニュース 代表 田中陽子氏 西日本産直協議会 顧問 栢村藤夫氏

と き 2019年7月31日(水) 13:30~17:00

ところ 国民宿舎 紀州路みなべ 〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町塚田1540 TEL: 0739-72-3939

定員 40名 参加費 無料

品評会には、専売所で製造されている商品を持ってきてください。

各地での農福連携の活動が活発化しています。ジャム、ジュース、乾燥野菜などの加工食品の製造事業所も増えているなか、販路や、売価、パッケージ等にお悩みではありませんか？また、農産物を栽培されている事業所さんも農産物の様々な加工食品をご検討されてはどうか。このたび、農産物の加工食品に特化した品評会と学習会を開催いたします。

プログラム

13:00~13:30	受付	
13:30~14:30	講演1 田中陽子氏 「六次産業化のヒント」	
14:30~14:40	休憩	
14:40~15:40	講演2 栢村藤夫氏 「みんなで助けようぜー」	
15:40~17:00	品評会	
17:30~18:30	講師を囲んで情報交換会(有料)	

講師紹介

田中陽子 東京在住

株式会社コープニュース代表
農水省6次産業化プランナー

コープニュースは生活協同組合と企業、社会を結ぶ月間発行の新聞。コープニュースの発行をどうして消費者、企業の動向に明るく、豊富な経験から、今求められる商品知識をお持ちです。

栢村藤夫 和歌山市在住

西日本産直協議会顧問

同会は、近畿を中心に生産者、企業、農業、水産業者で構成された異業種団体。「自然から学び、自然と共に」をテーマにした展示会を毎年大阪で開催し、今年で11回目の開催でした。多くのお客さまが来場し好評を得ています。また、会員同士の交流も深まっています。また、栢村氏は、生協運営に長年携わり、消費者ニーズ、食品業界の知識も豊富です。



別紙研修資料④

別紙研修資料⑤

別紙研修資料⑥

別紙研修資料⑦

別紙研修資料⑧

別紙研修資料⑨